

令和 6 年度

岐阜県協同農業普及事業外部評価

結果報告書

(H P 掲載用)

令和 7 年 2 月

岐阜県農政部農業経営課

はじめに

岐阜県では農業改良助長法に基づき、農業経営課及び各農林事務所に普及指導員を配置し、農業経営の改善に関する科学的技術及び知識の普及指導を行う協同農業普及事業に取り組んでいます。

具体的には、生産現場に直接出向く各農林事務所において、国の「協同農業普及事業の運営に関する指針」（平成27年5月11日付、農林水産省告示第1090号）」、県の「ぎふ農業・農村基本計画（令和3年度～令和7年度）」及び「協同農業普及事業の実施に関する方針（令和3年度～令和7年度）」に基づき、5年ごとの基本計画及び年度計画を作成し、地域の実情を踏まえた普及事業を展開しています。

また、普及事業の一環として、農業者研修教育施設である農業大学校では、新規就農者の育成・確保を目的に「岐阜県農業大学校担い手育成機能強化プラン（令和2年度～6年度）」及び年度ごとの教育計画を作成し、教育・研修に取り組んでいます。

近年は、研修から営農定着までの一貫した就農支援体制の構築や、国際競争力を強化するGAP（農業生産工程管理）の実践などにおいて成果を上げつつ、みどりの食料システム戦略を踏まえた環境負荷低減の取組み、有機農業の推進、スマート農業技術の導入支援などへと、活動の幅を広げています。

今後も、情勢の変化や現場のニーズに対応した普及事業を実施し、高い成果を上げていくためには、外部からの客観的な視点で評価を受け、業務改善に努める必要があります。このため、毎年度、農業者や学識経験者等を委員とする外部評価会を開催しており、令和6年度は「農業経営課岐阜市駐在（農業革新支援センター）」「岐阜農林事務所農業普及課」「岐阜県農業大学校」の3つの所属を対象に実施しました。

ご協力いただいた外部評価委員の皆様には心よりお礼申し上げますとともに、いただいた貴重な御意見を普及事業の改善につなげ、さらなる高度化を進めるよう努めてまいります。

令和7年2月

岐阜県農政部農業経営課長

1 外部評価の目的

「協同農業普及事業の実施に関する方針」に基づき、普及指導活動において高い成果を創出するため、先進的な農業者や学識経験者、農業団体職員、消費者、報道関係者を含む委員による外部評価を実施し、その意見を次年度以降の活動に反映させることを通じて、業務の改善を行うことを目的とする。

2 外部評価の範囲

- ・各農林事務所農業普及課の普及指導計画及び普及指導体制、並びに農業革新支援センターの普及活動に関すること。
- ・農業大学校の教育課程、募集活動及び就農支援活動に関すること。

3 外部評価の経過

(1) 外部評価委員の選定

農林水産省生産局長通知「協同農業普及事業の実施についての考え方（ガイドライン）」に基づき、先進的な農業者、若手・女性農業者、農業団体職員、消費者、学識経験者、報道関係者、民間企業から以下の7名を選定。

岐阜県協同農業普及事業外部評価委員一覧（順不同 敬称略）

区 分		氏 名	所 属	役 職
1	先進的 農業者	春見 秀則	岐阜県指導農業士連絡協議会 (岐阜県農業担い手リーダー)	会長
2	女性 農業者	小板 美和	岐阜県女性農業経営アドバイザー いきいきネットワーク (岐阜県農業担い手リーダー)	理事
3	学識 経験者	秋元 浩一	名古屋学院大学商学部	名誉教授
4	農業関係 団体	北川 浩正	岐阜県農業協同組合中央会 営農支援センター	センター長
5	消費者	堀部 智子	生活協同組合コープぎふ	理事
6	報道 関係者	國本 真志登	岐阜新聞 統合編集局	局長
7	民間企業	桂川 まゆみ	イオンリテール株式会社 東海カンパニーエリア政策推進 チーム	岐阜県担当

(2) 評価対象課題の抽出、各所属での自己評価の実施

令和6年度は、以下の3課題を評価対象とし、外部評価会に先立ち、各評価対象所属が「普及指導活動における課題別評価表（別紙様式1）」により自己評価を実施。

- | |
|---|
| ① 「冬春トマトにおける計画生産に向けた環境制御技術の導入」
農業経営課岐阜駐在（農業革新支援センター） |
| ② 「都市近郊野菜の産地育成」
岐阜農林事務所農業普及課 |
| ③ 「農業大学校の教育と担い手育成」
岐阜県農業大学校 |

(3) 岐阜県協同農業普及事業外部評価会の開催

各評価対象所属からの自己評価結果の説明後、秋元委員を座長に質疑応答を実施。外部評価委員は評価結果を「外部評価 課題別評価表（別紙様式2）」により後日提出。

日 時：令和6年10月11日（金） 13：00～16：00

場 所：岐阜県農業大学校

説明者：以下のとおり

所 属	役 職	氏 名
農業経営課岐阜駐在 （農業革新支援センター）	技術指導監	酒井 貞明
	主幹	竹林 宏美
	技術課長補佐兼係長	田畑 幸司
	技術課長補佐	高橋 幸隆
岐阜農林事務所農業普及課	課長	出町 誠
	技術課長補佐兼係長	砂川 匡
岐阜県農業大学校	校長	大橋 薫子
	副校長	高木 昌弘
農業経営課普及企画係 （事務局）	係長	河合 浩子
	主任技師	小田 桃子

4 課題ごとの評価結果

①「冬春トマトにおける計画生産に向けた環境制御技術の導入」 農業経営課岐阜駐在（農業革新支援センター）

（１）普及活動の概要

活動対象	海津トマト部会養液研究会、県下トマト養液栽培システム導入生産者
課題設定の背景	養液栽培システムや栽培環境を整えるため施設機器が新規就農者を中心に導入されているが、それらを十分に活用できていないため、機器のコストに見合った収益（収量）が得られていない。
指導事項	冬春トマト養液栽培システム及び環境制御施設を導入している生産者に対し、その装備を十分に活用し、計画的な生産が可能となる技術を自ら学ぶ仕組みを構築する。 1 生産者の栽培状況を数値データで読み取れるようにするため、データの作成とそれを効率的に回収する仕組みを作る。 2 回収したデータを活用し、計画的に生産ができるナビゲーションシステムを関係機関や民間組織と連携して開発する。 3 開発したナビゲーションシステムを生産者ニーズに合わせてブラッシュアップを行う。 4 ナビゲーションシステムを他の地域の生産者へ普及させる。
活動結果	1 海津トマト部会養液研究会員のデータを自動的に収集・分析する仕組みを構築した。 2 ナビゲーションシステムを構築するため、農業者のデータを一元化する県プラットフォームを導入し、収集したデータから経営分析が行えるよう検討会を繰り返し行った。検討会を通じて普及指導員の指導力を強化することができた。 3 自主学習グループづくりを支援し、開発したナビゲーションシステムを活用した技術指導を定期的に行った。生産者同士の情報交換や技術習得につなげることができた。 4 地域内の土耕栽培者や他の冬春トマト産地にデータをシステムの導入や研修会の開催を勧めたが実施には至らなかった。

(2) 普及活動の総合評価

ア 評価結果と意見

A (良好)	B (普通～概ね良好)	C (改善必要)
3 人	4 人	0 人
【農業者】 ・スマート農業が万能であるわけではないが、課題を解決する技術アイテムとして活用できれば、経営に役立てる農家も増え、産地保全と農業者の経営改善につながる。 ・設備等にかかる金額が適正であるかを見極めてハード、ソフトの導入を検討いただきたい。関係機関が技術を蓄積し、農家が安価な設備投資で導入できる仕組みづくりをお願いしたい。トマト以外にも波及できる技術なので今後の普及活動にも期待している。 ・成果は出ているので、新規就農者だけでなく、全体へ広がっていくと良い。 【学識経験者】 ・意欲的な取組みが進められた結果として、普及活動への弾みがついている。 【農業関係団体】 ・持続的な農業のためには、農業技術の伝承のみならず、各種データ収集、分析、活用が必須である。 ・時間や費用のかかる取組みであるが、着実に活動が進められている。今後、農業者にとって価値あるものとなることを期待する。 【消費者】 ・個人の収益だけでなく、農家全体で平均的な収入を得られるよう、また持続可能な生産ができるよう、これからも生産者と共に考えてほしい。 【マスコミ】 ・さらなるデータの蓄積を進め、他の農産物へ応用されると良い。 【民間企業】 ・早く成果を出す必要のある課題を重点課題とした点は良い。 ・今後のデータの蓄積と分析により使いやすいシステムにしていければ良い。 ・農家だけでなく、指導員の知識拡大につなげる。		

イ 所属の対応方向

項目	対応方向
① 適正な設備金額の設定、案簡易導入できる仕組みづくり	① 環境モニタリング装置については、日々改良が進んでいるので価格も含め、より良い装置等の情報を収集し、提供できるよう努める。
② トマト以外でのデータを活用した普及指導員の指導力の向上	② 現在、トマト以外にもいちご、切りバラで環境データを活用した技術支援の実証に取り組んでおり、今後、職員研修等で成果を共有し普及指導員の指導力向上に繋げる。

②「都市近郊野菜の産地育成」
岐阜農林事務所農業普及課

(1) 普及活動の概要

活動対象	1 J A ぎふえだまめ部会 2 岐阜市園芸振興会だいこん部会 3 J A ぎふ糸貫トマト振興会
課題設定 の背景	1 えだまめ部会は生産者の高齢化や長梅雨、高温干ばつの影響等により生産量が減少している。G A P 継続に向けた支援が必要である。 2 だいこんほ場の多くは市街化区域にあるため、家畜由来たい肥の施用を控えている。また、えだまめとの輪作により、経営面積に余裕が無く緑肥の作付けが制限され、地力維持が困難となっている。 3 トマトの新規栽培者が増えているが、長年の勘による栽培管理での失敗が多いため、データによる栽培管理が急務である。
指導事項	1 品種試験により優良品種（安定的に高品質かつ高収量）を探索し、研修会において優良品種への作付け誘導を図る。 若手部による新規導入技術の実証検討を支援し、産地全体への波及・経営面積拡大を図る。 G A P の取組みの継続により、高品質安定生産および適切な農場管理を図る。 2 副次効果の理解促進とリビングマルチ技術のさらなる普及を図る。 3 新規就農者が孤立しないよう濃密指導を行う。データ活用方法を駆使した、管理方法のノウハウ蓄積と標準化を支援する。
活動結果	1 作型の違いによるえだまめの品種特性を明らかにし、部会の作付け計画を更新できるようにした。 若手部が収穫機の実演会を実施し、収穫機の導入に向けた機運が高まった。 部会全戸を対象に、J A 営農指導員や生産者と共にG A P の外部点検を実施した。これにより認証G A P を希望する生産者が増えた。 2 実証ほの設置により、秋冬から春作までの作型でリビングマルチが対応できることを確認した。研修会で雑草の生育抑制や地力維持効果の情報提供を行った。 3 巡回、電話、メールを活用し、生育状況を共有し、適期に管理作業が実施できるよう支援した。養液データを比較し養液管理に活用できた。ベテラン生産者の労務管理方法を情報提供し改善につなげた。

(2) 普及活動の総合評価
ア 評価結果と意見

A (良好)	B (普通～概ね良好)	C (改善必要)
4 人	3 人	0 人
【農業者】 ・産地を維持するためには既存農家の存続、継承がカギを握る。新規就農者の育成も必要であるが、既存農家の収益増大が産地を維持し、後継者をつくる早道である。高齢化する産地ほど、今回のような即効性のある活動は農家にとってもありがたい。 ・えだまめでは、J Aやバイヤーを巻き込んだ新品种の販売に期待したい。 ・露地野菜は、担い手の高齢化で重労働や温暖化で農家の減少が著しく、大規模化による面積集約が多く見られるが、都市近郊地域の特性を生かした産地保全に努めていただきたい。 ・普及組織を必要としている農業者はまだまだいると思う。 【学識経験者】 ・適切な課題設定のもと、適切に普及活動に取り組んでいると評価できる。 【農業関係団体】 ・えだまめ、だいこん、トマトと幅広い品目で、それぞれ多様な取り組みが行われており、興味深いものばかりである。 ・農業者の高齢化等の課題は、岐阜地域他品目、県内の他地域にも共通しており、多様な取組みの波及を期待する。 【消費者】 ・G A P取得や新規就農者への支援体制が整っているところはとても高く評価できる。 ・リビングマルチにおける土壌の化学的変化に大きな差異はない、とのことだったが、土づくりはこれからの農業にとってとても重要な観点であるので引き続き検証を行っていただきたい。 ・消費者が県内の品質の良い作物を継続的に手にすることができるために、若手の就農者が安定収入を得られ安心して農業が続けられるように支援いただきたい。 【マスコミ】 ・さらなる浸透を願う。 【民間企業】 ・新しい品種や栽培方法、D Xなど関連する機関や企業等の協力を得て、農業従事者への説明がしっかりできていると思う。 ・それぞれの取組みの中での、農業従事者とのコミュニケーションが適正に行われている様子がよくわかった。		

イ 所属の対応方向

項目	対応方向
① 産地維持、後継者確保に向けた既存農家の収益増大	① 既存農家の収益を増やして後継者を確保するため、農家あたりの生産規模の拡大による生産量の増加や農作業を軽労化するための機械化を進める。
② J Aやバイヤーを巻き込んだ新品种の販売までの取り組み	② 今後取り組むべき課題としてJ Aや全農とともに方策を検討していく。
③ 都市近郊地域の特性を生かした産地保全	③ 今回の事例に加えて、同様の都市近郊地域の取り組みを参考に、産地保全のためにどのように普及活動を展開すべきか、関係機関とともに検討を進めていく。
④ リビングマルチの土づくり効果の検証	④ たいこん後作のえだまめ等の作物において、干ばつに起因する障害が軽減したとの農業者の意見もあり、今後は土壌物理性の改善効果についても検証していく。

③「農業大学校の教育と担い手育成」
岐阜県農業大学校

(1) 教育の概要

項目	1 学生の確保 2 農業従事者の育成と就農支援 3 教育の高度化 4 農業と福祉の連携支援 5 教育計画の着実な実施
活動結果	1 高校訪問、進路ガイダンス等への参加、オープンキャンパスの実施、緑の学園（農業高校2年生を対象とした農業体験学習）、若手農業者との意見交換会などの開催により定員充足率（過去10年）は92%であった。 2 先進農家派遣学習の実施、農業法人等への校外学習、就農支援アドバイザーの設置、資格取得支援により卒業生の就農率（過去10年）は53%であった。 3 環境制御温室、自動操舵トラクタ、ラジコン草刈機、牛温恵などスマート農業機器の導入やGAP認証、環境保全型農業の学習を取り入れ、教育の高度化を図った。 4 農業と福祉の橋渡しを行う人材を育成するため、福祉事業所等の職員に対して「農福連携栽培技術基礎講座」を開催し、植物生理、土壌肥料、病虫害防除に関する知識や野菜の栽培技術の習得を支援した。 5 校外学習や県農業士等先進農家を招いた特別講義を実施し、各学年1,200時間、2年間で2,400時間の教育カリキュラムを計画的に実施した。

(2) 普及活動の総合評価

ア 評価結果と意見

A (良好)	B (普通～概ね良好)	C (改善必要)
5 人	2 人	0 人
【農業者】 ・ 毎年ほぼ定員が確保できており成果が出ているのではないかと。就職先、就農先も7割以上が県内であることから、地域への貢献度も高い。 ・ 現状でもGAP、スマート農業など最先端の内容を取り入れられ見直しており、素晴らしい。今後も進路の多様化や栽培品目、基本授業の内容も定期的に見直しされ社会で役立つ人材育成を期待する。 ・ 農業は「きつい」「稼げない」と言われているが、今はスマート農業を取り入れる方法もある。食は生きている者にとって一番大切なことなので、一人でも多くの人たちが農業の大切さを伝えていっていただきたい。 【学識経験者】 ・ 農業大学校の存在意義は多大であり、岐阜県における重要な役割を担い、効果を発揮していると評価できる。 【農業関係団体】 ・ 机上のみならず、実習、校外学習及び派遣学習の組み合わせにより、幅広い知識・技術等を身につけるカリキュラムとなっている。 ・ 本県農業の担い手を輩出する重要な教育機関であり、県が一体となり、さらに同校をバックアップする体制を構築することを期待する。 【消費者】 ・ 今回初めて農業大学校を訪れた。学生たちがとても明るくまじめにイキイキと学んでいる姿をととても頼もしく感じた。もっとたくさんの人に学校の取組みを紹介する機会が増えることを期待する。 ・ 施設の老朽化により十分な実習が行えなくなったり、継続運営できなくなることが心配。未来を担う学生たちのために、また農業の発展のために何か応援できることがないか考えたい。 【マスコミ】 大学側の努力では補いきれない社会の変化が進んでおり、入学希望者の減少、施設の老朽化など困難も多いが、実践を魅力とする特徴を生かして今後も取り組んでほしい。 【民間企業】 ・ 学生さんが、いきいきと自分が学んでいることを発表している様子がとても印象的だった。 ・ 授業料が安いことに驚いた。設備の老朽化の問題や、最先端の知識、技術を学ぶためにももう少し授業料を上げてよいのでは？と思った。		

イ 所属の対応方向

項目	対応方向
① 学習内容の定期的な見直し	① G A Pやスマート農業など国や県の最新の施策を取り入れるなど、臨機に対応しており、今後も最新のトレンドを取り入れた授業を行っていく。
② 県の農業大学校のバックアップ体制	② 農業高校など県内教育機関はもとより、関係団体で組織する「農大生を応援する会」や同窓生でつくる「土生会」と一体となって学校運営を行っていく。
③ 農業大学校のP R強化	③ 現在のホームページを見直し、農大独自での作成進めるなど（来年度公開を予定）、今後ともP R強化に取り組む。
④ 施設の老朽化に対応した授業料の増額	④ 授業料は、高校授業料の改訂や社会情勢を判断のもと県条例で定められており、必要があれば議会に諮り見直すこととなる。

5 外部評価結果の反映

農業経営課では外部評価結果を取りまとめ、評価対象の所属に送付し次年度の普及活動に反映させるとともに、「令和6年度 岐阜県協同農業普及事業外部評価結果報告書」を県ホームページ上に公開しました。

(別紙様式1)

普及指導活動における課題別評価表

評価対象年度 令和 年度

課題名： _____

所属名： _____

1 達成目標に対する実績

※各指導項目とその目標に対する実績（特に成果の上がった内容や達成できなかった事柄）と達成状況の数値的評価を記載する。

表1 主な指導項目（達成目標）に対する実績と達成状況

指導項目（目標）	達成目標に対する実績	達成状況（%）

2 自己評価

※3段階評価するとともに、その評価に至ったコメントを記載

(1) 課題（指導項目）の設定

A（良好）	B（普通～概ね良好）	C（改善必要）
-------	------------	---------

（コメント）

※成果・結果を踏まえて、現状のニーズの把握、指導事項について評価する。

(2) 普及活動の体制及び手法

A（良好）	B（普通～概ね良好）	C（改善必要）
-------	------------	---------

（コメント）

※指導体制及び活動時期、方法を整理分析、評価する。

(3) 普及活動の経過とその成果（結果）

A（良好）	B（普通～概ね良好）	C（改善必要）
-------	------------	---------

（コメント）

※単なる結果だけでなく、取り組みとして出来たこと出来なかったことを分析し、評価する。

(4) 普及活動の総合評価

A（良好）	B（普通～概ね良好）	C（改善必要）
-------	------------	---------

（コメント）

※全体を総括して評価する。

(別紙様式2)

令和6年度 外部評価 課題別評価表「委員氏名：_____」

対象：〇〇農林事務所
令和〇年度課題「_____」

自己評価の結果を受けて、3段階評価いただくとともに、ご意見や改善が必要な点を箇条書きでご記載ください。

(1) 課題(指導項目)の設定

A (良好)	B (普通～概ね良好)	C (改善必要)
※普及指導計画の課題の設定、対象の選定について評価する。 (コメント)		

(2) 普及活動の体制及び手法

A (良好)	B (普通～概ね良好)	C (改善必要)
※指導体制及び活動方法として、(1)関係機関・団体との連携 (2)活動の方法、時期、手段 (3)専門的な技術、情報の活用などについて評価する。 (コメント)		

(3) 普及活動の経過と成果(結果)

A (良好)	B (普通～概ね良好)	C (改善必要)
※成果がでているかについて評価する。 (コメント)		

(4) 活動の波及総合評価

A (良好)	B (普通～概ね良好)	C (改善必要)
※他の農業者や地域への波及について評価する。 (コメント)		

(5) 普及活動の総合評価

A (良好)	B (普通～概ね良好)	C (改善必要)
※全体を総合して評価する。 (コメント)		